

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成22年7月1日(2010.7.1)

【公開番号】特開2008-256770(P2008-256770A)

【公開日】平成20年10月23日(2008.10.23)

【年通号数】公開・登録公報2008-042

【出願番号】特願2007-96197(P2007-96197)

【国際特許分類】

G 02 B 26/10 (2006.01)

G 02 B 27/18 (2006.01)

H 04 N 1/113 (2006.01)

H 04 N 1/036 (2006.01)

G 03 B 21/00 (2006.01)

【F I】

G 02 B 26/10 1 0 1

G 02 B 27/18 Z

H 04 N 1/04 1 0 4 Z

H 04 N 1/036 Z

G 03 B 21/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成22年5月18日(2010.5.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

光源からの光を走査する走査装置であって、

反射面の角度を制御することができる可動式反射板と、

前記光源と前記可動式反射板との間に配置されて、入射する光を選択的に透過又は反射する反射／透過素子と、  
を備え、

前記反射／透過素子は、

前記光源から前記可動式反射板へと向かう入射光を透過し、

前記反射／透過素子を透過した透過光が前記可動式反射板によって反射された第1の反射光を、再び、前記可動式反射板に向かって反射し、

前記第1の反射光が前記反射板によって反射された第2の反射光を透過することを特徴とする、走査装置。

【請求項2】

請求項1記載の走査装置であって、

前記反射／透過素子は、

第1の直線偏光を透過するとともに前記第1の直線偏光と直交する偏光方向を有する第2の直線偏光を反射する反射型偏光板と、

前記反射型偏光板よりも前記可動式反射板に近い側に配置された1/4波長板と、  
を有しており、

前記光源から、前記第1の直線偏光を前記入射光として受ける、走査装置。

【請求項3】

投射光によって画像を表示する投写型表示装置であって、  
光を射出する光源と、  
前記光源からの光を走査する走査装置と、  
前記走査装置を制御する制御回路と、  
を備え、

前記走査装置は、反射面の角度を制御することができる可動式反射板と、前記光源と前記可動式反射板との間に配置されて、入射する光を選択的に透過又は反射する反射／透過素子と、を備え、前記反射／透過素子は、前記光源から前記可動式反射板へと向かう入射光を透過し、前記反射／透過素子を透過した透過光が前記可動式反射板によって反射された第1の反射光を、再び、前記可動式反射板に向かって反射し、前記第1の反射光が前記反射板によって反射された第2の反射光を透過して走査光として射出し、

前記制御回路は、画像信号に応じて前記可動式反射板を制御することによって、前記走査光を走査して走査対象に画像を形成する、投写型表示装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明の一形態による装置は、光源からの光を走査する走査装置であって、反射面の角度を制御することができる可動式反射板と、前記光源と前記可動式反射板との間に配置されて、入射する光を選択的に透過又は反射する反射／透過素子とを備え、前記反射／透過素子は、前記光源から前記可動式反射板へと向かう入射光を透過し、前記反射／透過素子を透過した透過光が前記可動式反射板によって反射された第1の反射光を、再び、前記可動式反射板に向かって反射し、前記第1の反射光が前記反射板によって反射された第2の反射光を透過することを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

前記反射／透過素子は、第1の直線偏光を透過するとともに前記第1の直線偏光と直交する偏光方向を有する第2の直線偏光を反射する反射型偏光板と、前記反射型偏光板よりも前記可動式反射板に近い側に配置された1/4波長板とを有しており、前記光源から、前記第1の直線偏光を前記入射光として受けるものとしても良い。